最後の獅子舞を披露

11月30日（土）、今年度閉校する富士見小学校（児童数43人）で閉校式典が行われました。

同校は1986年4月に野木、木筒、水元小の一部学区が統合され開校しました。閉校式では下平正明校長が「児童の皆さんは富士見小学校で学んだことに自信と誇りを持ち、富士見魂を胸に刻みながら夢に向かって進んでください」と呼び掛けました。

式典第2部では富士見小学校として最後の獅子舞演舞が披露され、出席者たちは感慨深く見守っていました。

最後に児童を代表して6年生の吉田学叶君が「富士見っ子であることに誇りを持ち、頑張っていきます」と胸を張って述べました。

△富士見小学校での最後の獅子舞演舞。

あなたの地区の楽しい催しや出来事などがありましたら、役場企画観光課まちづくり班（内線262）までお知らせください。

母校に感謝を伝える

水元中央小学校（児童数54人）で12月1日（日）、閉校式典が行われました。

同校は2004年4月に水元小、同小田の尻分校、妙堂崎小が統合して開校し、これまで234人の卒業生を輩出してきました。

式では、石田隆浩校長が「今までつないできた水元中央小学校や古里の宝物を大切にし、みんなが輝く未来へと向けて頑張りましょう」と呼び掛け、児童たちは力強く「はい！」と答えました。

式典後は「感謝の会」が開かれ、登山囃子や「ふるさと学習」で学んだことを寸劇形式で発表しました。最後に全校児童が「ありがとう、僕らの私たちの水元中央小学校」と感謝を伝えていました。

△息の合った演奏を披露してくれた児童たち。

餅つきで防犯意識を高める

梅沢小学校で12月7日(土)、「防犯餅つき大会」(五所川原地区防犯協会梅沢支部主催)が行われ、参加した児童が餅をついて地域住民と交流を深めたほか、防犯を呼び掛ける標語を発表し、防犯に対する意識を高めていました。

梅沢小学校が今年度閉校するため、この防犯餅つき大会も今回で終了となります。

児童たちは保護者や先生の手を借りながら、きねを使って「よいしょー！」の掛け声とともに元気に餅をつきました。できあがった餅は、お雑煮やお汁粉、きな粉餅にして参加者に振る舞われ、児童たちは自分でついた餅を「おいしい」とお腹いっぱい食べていました。

△おいしいお餅になるように力強く餅をつく児童。

籠いっぱいのリンゴを持って登校

児童が学校給食用のリンゴを家庭から持ち寄る「リンゴ一籠(ひとかご)運動」が12月9日（月)、町管内の小学校で行われました。児童たちは朝寒い中、頬を赤くしながらリンゴをいっぱいに詰めたかごを手に登校。富士見小学校では20キロ箱で4．5箱分（約90kg相当）のリンゴが集まりました。

当町では、食育や地産地消を推進するため、毎年、地域の生産者からリンゴを提供してもらい、11月下旬から小中学校の学校給食の献立にリンゴを添えています。

中野教育長は「ご家庭からのご協力に感謝いたします。子どもたちにはおいしいりんごを食べて元気に育ってもらいたい」と話していました。

△朝寒い中、一生懸命リンゴを運んできてくれました。

議会の重要性に理解を深める

胡桃舘小学校の6年生9人が、社会科の校外学習で身近な議会である町の議会を見学して理解を深めようと、12月11日（水)、町議会12月議会定例会一般質問の様子を見学しました。

相川町長は開会前に子どもたちへ「議会でのやりとりを見学して、少しでも町政に関心を持ってくれたらうれしい」と話していました。この日は統合小学校建設による町の財政状況や子どもの貧困問題、町奨学金制度についてなど児童たちに関わりのある質問が多くされました。

議会を見学した児童は「子どもたちのことを大切に思い、問題の解決策を考えてくれてすごい」と感想を話していました。

△真剣に議会のやりとりを聞く胡桃舘小学校の児童たち。